

マルチストーリーミングセンサデータ向け リアルタイム空間補間可視化システム

静岡大学 情報学部 峰野研究室

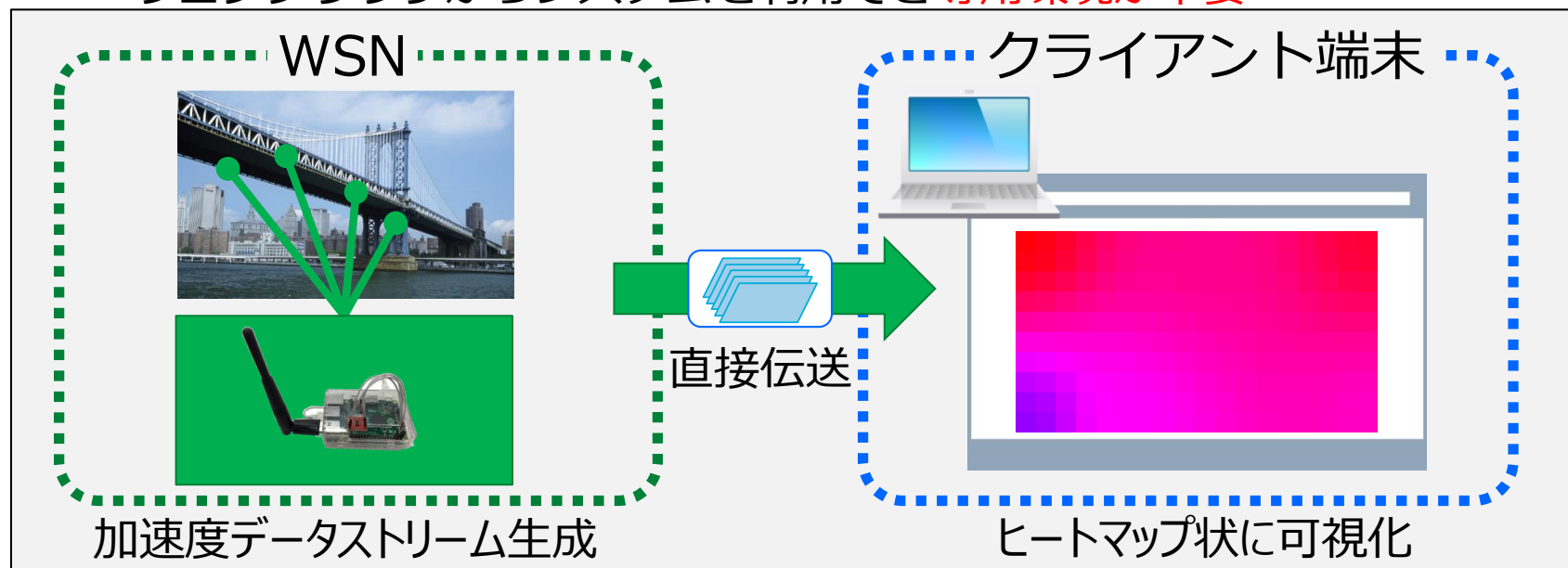
2017/10/05

システム概要

概要

• マルチストリーミングセンサデータ向けリアルタイム空間補間可視化システム

- 無線センサネットワークから加速度データストリームを生成
 - クライアント端末へ直接伝送
- データの空間補間を用いてヒートマップ状に可視化
 - 振動状況の状態を感覚的に評価
- ウェブシステムとして構築
 - ウェブブラウザからシステムを利用でき専用環境が不要



システムアーキテクチャと動作

データ生成

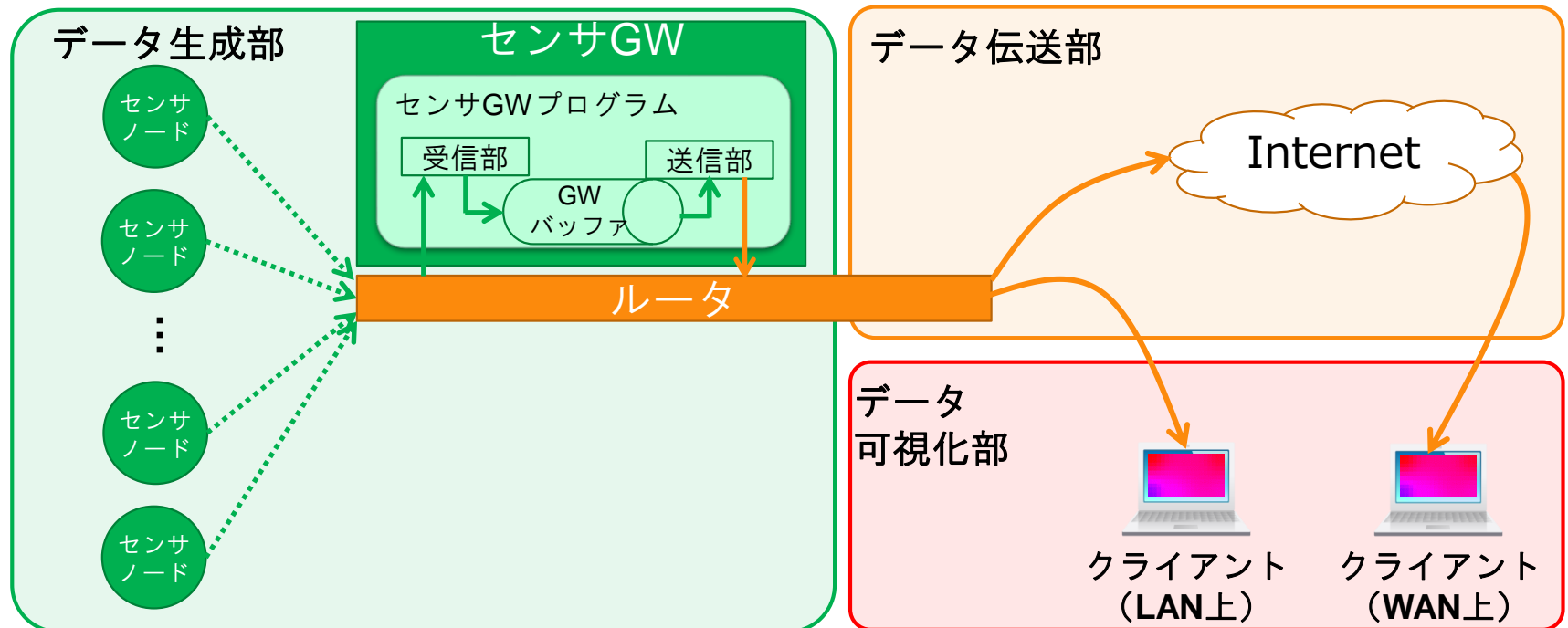
- 無線センサノードにてデータサンプリング
- センサGWにてセンサデータを集約

データ伝送

- 集約センサデータをセンサGWからクライアント端末へ伝送
- 伝送には軽量なWebSocket通信を採用

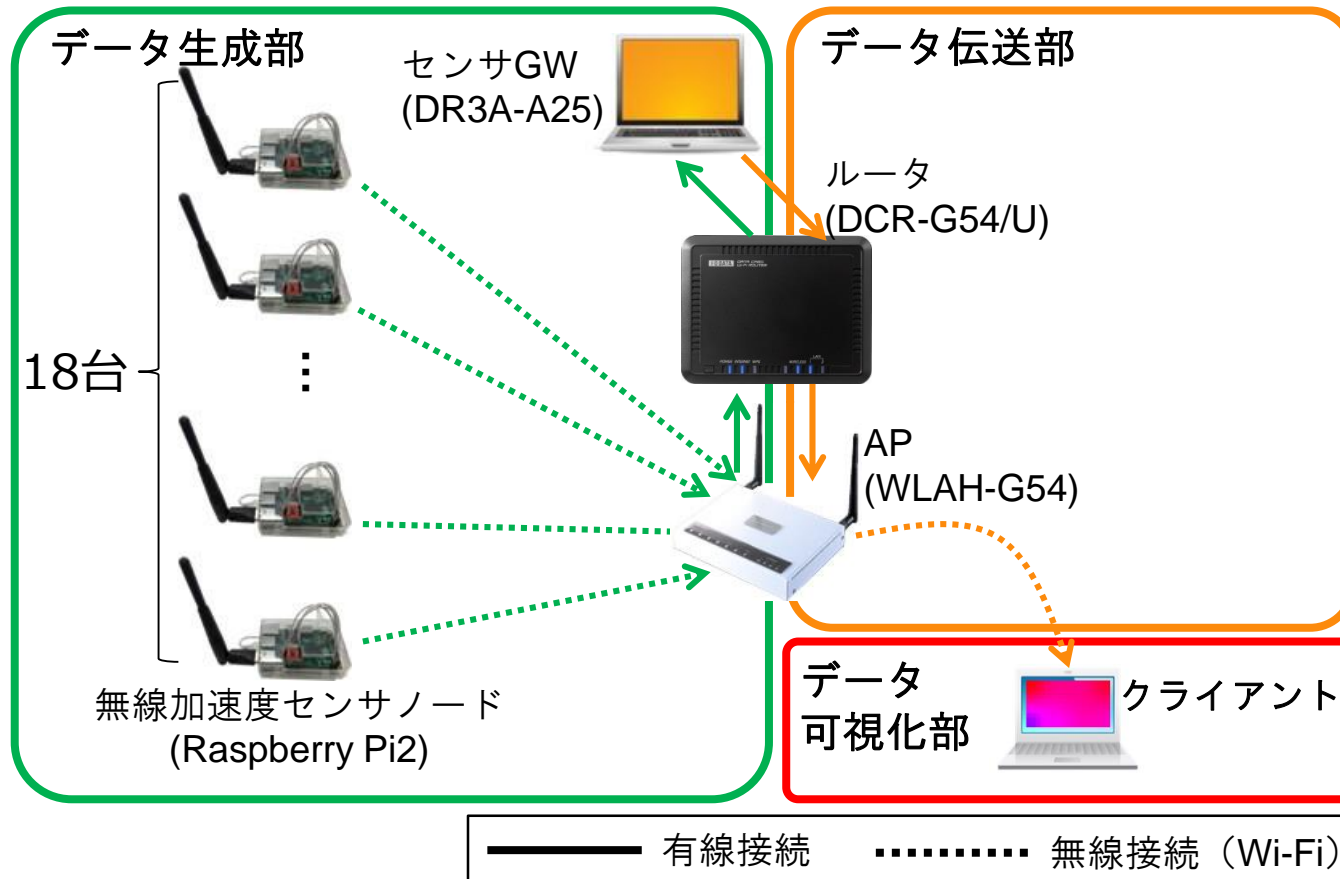
データ可視化

- クライアント端末にて集約センサデータを受信
- ウェブブラウザにてデータの空間補間と描画を行い可視化



プロトタイプシステム

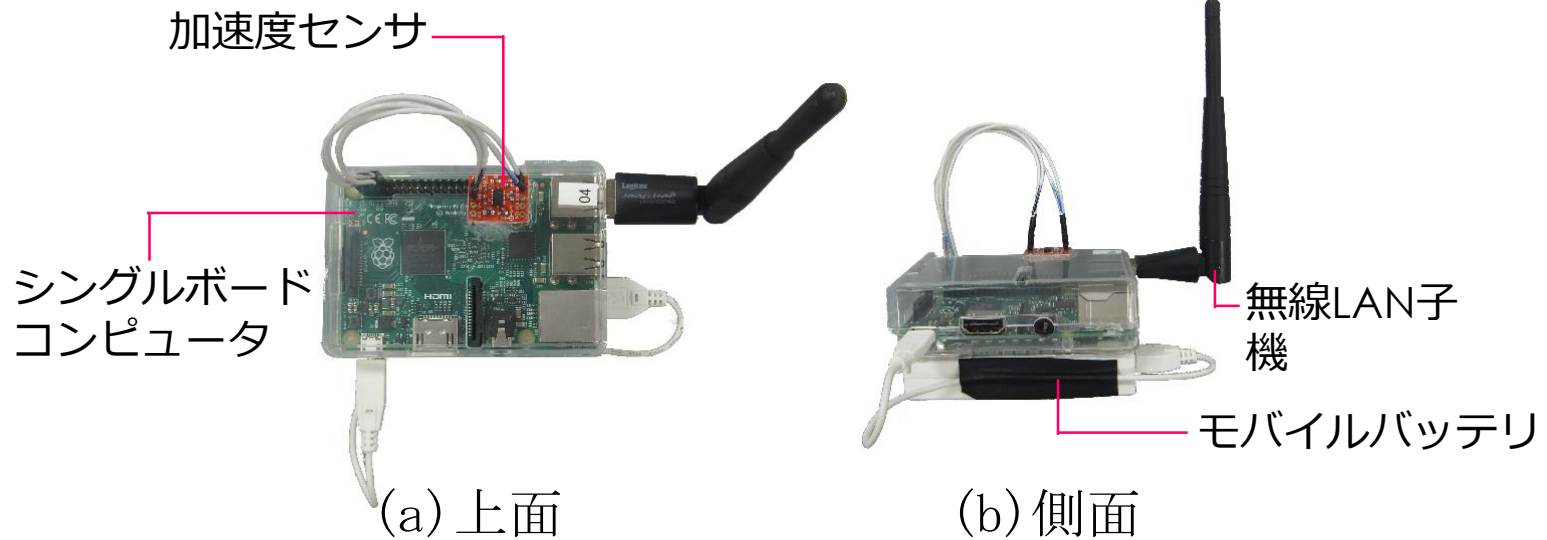
- マルチストリーミングセンサデータ向けリアルタイム空間補間可視化システム



無線加速度センサノード 構築手順

構築方法: センサノード [1/7]

• 外観



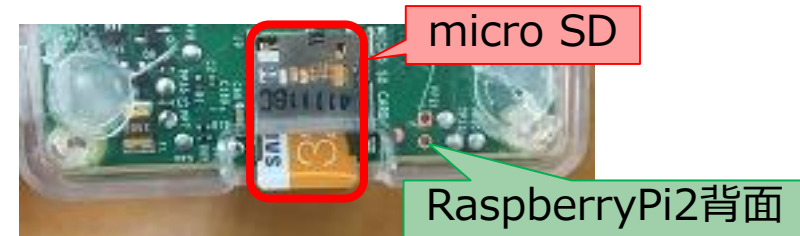
• 構成要素

要素	品名・型番
シングルボードコンピュータ	Raspberry Pi2(ケース付)
micro SD カード	MB-MP32DA(32GB)
無線LAN子機	LAN-WH300NU2
加速度センサ	ADXL345
モバイルバッテリー	CHE-061

構築方法: センサノード [2/7]

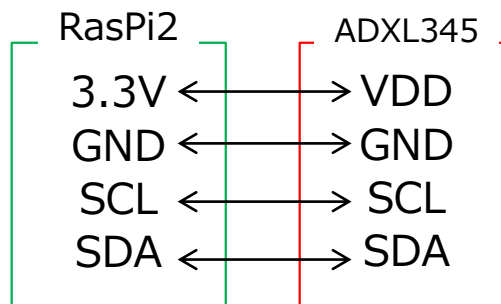
- RaspbeeyPi2へ各種機器を接続
 - OSインストール済みmicro SDカードの接続

- OS : raspbian-jessie-lite
- RaspberryPi2背面に挿入



- 加速度センサ (ADXL345)のI2C接続

- RaspberryPi2のGPIOとセンサの端子を接続



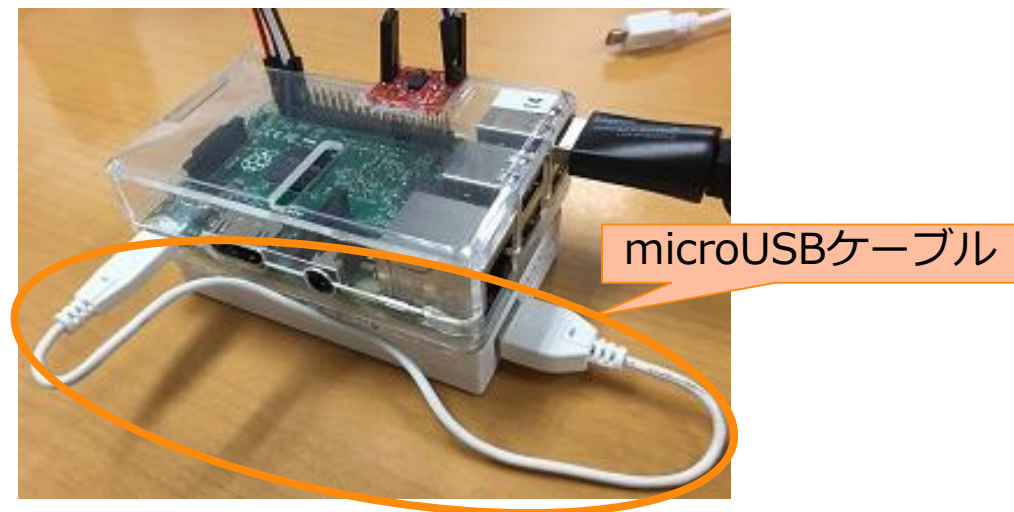
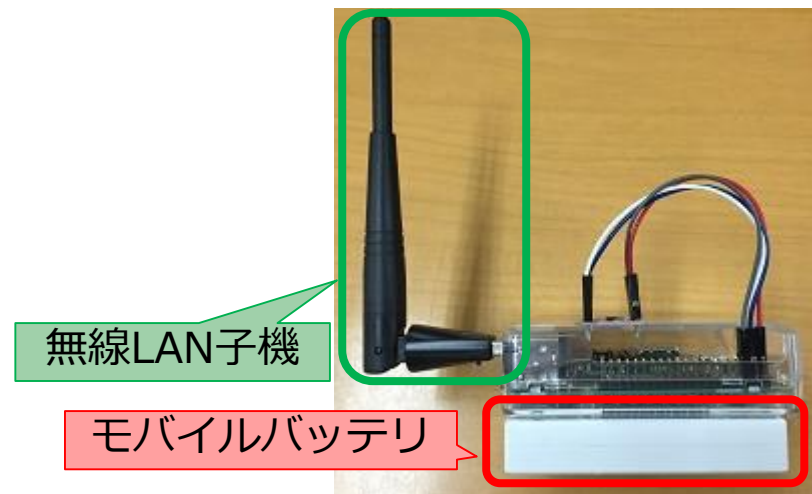
(a) GPIOの配線



(b) Raspberry Pi2への接続

構築方法: センサノード [3/7]

- RaspbeeyPi2へ各種機器を接続
 - 無線LAN子機 (LAN-WH300NU2) の接続
 - RaspberryPi2のUSB端子に接続
 - モバイルバッテリー (CHE-061) の装着
 - RaspberryPi2の背面にホットボンドを用いて装着
 - micorUSBケーブルを接続しモバイルバッテリーから電源供給



構築方法: センサノード [4/7]

- RaspberryPi2の起動・ログイン
 - RaspberryPi2にディスプレイとUSBキーボードを接続
 - ディスプレイ接続にはHDMIケーブルを用いる
 - **HDMIは起動前に接続しないと画面出力されないので注意**
 - RaspberryPi2に電源を供給
 - 画面が表示され，起動が完了するとログイン状態となる
 - ログイン
 - User:pi
 - Pass:raspberry

構築方法: センサノード [5/7]

- 無線設定

- IPアドレスの設定

- /etc/network/interfaces を編集

interfaces(無線LANのIPに関係する部分のみ)

```
auto wlan0
allow-hotplug wlan0
iface wlan0 inet static
    address 192.168.XX.YYY → 任意のIPアドレスに変更
    netmask 255.255.255.0
    network 192.168.XX.0
    broadcast 192.168.XX.255
    gateway 192.168.XX.1
    wireless-essid SSID {SSID}
    wpa-conf /etc/wpa_supplicant/wpa_supplicant.conf
```

- 無線アクセスポイントの設定

- 下記のコマンドを実行し, 設定ファイルを更新

```
# wpa_passphrase {SSID} {PASS} >> /etc/wpa_supplicant/wpa_supplicant.conf
```

{SSID} : 接続先のSSID

{PASS} : 接続時のパスワード

構築方法: センサノード [6/7]

- 無線設定

- ネットワークを再起動

```
# /etc/init.d/networking restart
```

- 設定内容の確認

- ifconfigとiwconfigを実行し、IPアドレスとSSIDを確認

```
# ifconfig wlan0
wlan0      Link encap:Ethernet  HWaddr {MAC ADDRESS}
IPアドレス inet addr:192.168.XX.YYY  Bcast:192.168.XX.255  Mask:255.255.255.0
           BROADCAST MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
           (中略)

# iwconfig wlan0
wlan0      IEEE 802.11bg  接続先SSID ESSID: {SSID}  Nickname: "<WIFI@REALTEK>"
           Mode:Managed  Frequency:2.462 GHz  Access Point: {MAC ADDRESS}
           (中略)
```

構築方法: センサノード [7/7]

- センサノードプログラムの準備

- プログラム確認

プログラムを配置したディレクトリに移動

```
# cd {センサノードプログラムディレクトリ}
# ls
Makefile          nodemain.c          setting.h
make_send_data.h  README.txt          udp_setup.c
mygettimeofday.c  sensor_io_handle.c  udp_setup.h
mygettimeofday.h  sensor_io_handle.h
```

- プログラム設定

- README.mdを参考にsetting.hを編集

- コンパイル

```
# make
(中略)
sensor_io_handle.o nodemain.o mygettimeofday.o udp_setup.o -lpthread -lm
# ls nodemain
nodemain
```

実行ファイルの生成を確認

センサゲートウェイ 構築方法

構築方法:センサゲートウェイ[1/2]

- センサゲートウェイ端末

- プロトタイプではDR3A-A25（ONKYO製）で動作確認

項目	型番・仕様等
型番（製造元）	DR3A-A25(ONKYO)
OS	Ubuntu 14.04.4 LTS 64bit
プロセッサ	Intel Core i5-2430M
クロック周波数	2.40GHz
コア数（論理コア数）	2 (4)
メインメモリ	8GB

- ゲートウェイプログラムの準備

- gatewayフォルダ内のプログラムを端末内の任意の場所へコピー
- setting.hを編集し，設定
 - 設定方法はREADME.mdを参照
- コンパイル
 - makeコマンドを実行すると，実行ファイル「gatewaymain」が生成

構築方法: センサゲートウェイ [2/2]

- センサゲートウェイプログラム一覧

gateway

- client_manager.cpp
- client_manager.h
- create_thread_for_client.cpp
- create_thread_for_client.h
- datastructure.h
- gatewaymain.cpp
- get_max_sock.cpp
- get_max_sock.h
- Makefile
- mygettimeofday.cpp
- mygettimeofday.h
- my_json_encode.cpp
- my_json_encode.h
- recv_frame_from_client.cpp
- recv_frame_from_client.h
- recv_frame_from_client_thread.cpp
- recv_frame_from_client_thread.h
- ringbuffer.cpp
- ringbuffer.h
- send_data_thread.cpp
- send_data_thread.h
- send_to_client_thread.cpp
- send_to_client_thread.h

- setting.h
- set_fds.cpp
- set_fds.h
- tcp_listen.cpp
- tcp_listen.h
- udp_listen.cpp
- udp_listen.h
- WS_accept_thread.cpp
- WS_accept_thread.h
- ws_handshake.cpp
- ws_handshake.h

cwebsocket

- build_arduino_library.sh
- client.html
- LICENSE
- README.md

lib

- aw-base64.h
- aw-sha1.h
- websocket.c
- websocket.h

クライアント環境 構築方法

構築方法:クライアント [1/2]

- クライアント端末

- プロトタイプではR732/E26GB (TOSHIBA) で動作確認

項目	型番・仕様等
型番 (製造元)	R732/E26GB (TOSHIBA)
OS	Windows7 Professional 64bit
プロセッサ	Intel Core i5-3230M
クロック周波数	2.60GHz
コア数 (論理コア数)	2 (4)
メインメモリ	8GB

- ウェブブラウザを搭載する汎用端末であれば使用可能

- クライアントプログラムの準備

- clientフォルダ内のプログラムを任意のウェブサーバ上にコピー
 - プロトタイプではセンサGW内のウェブサーバを構築
 - README.mdを参考にプログラムを設定

構築方法:クライアント [2/2]

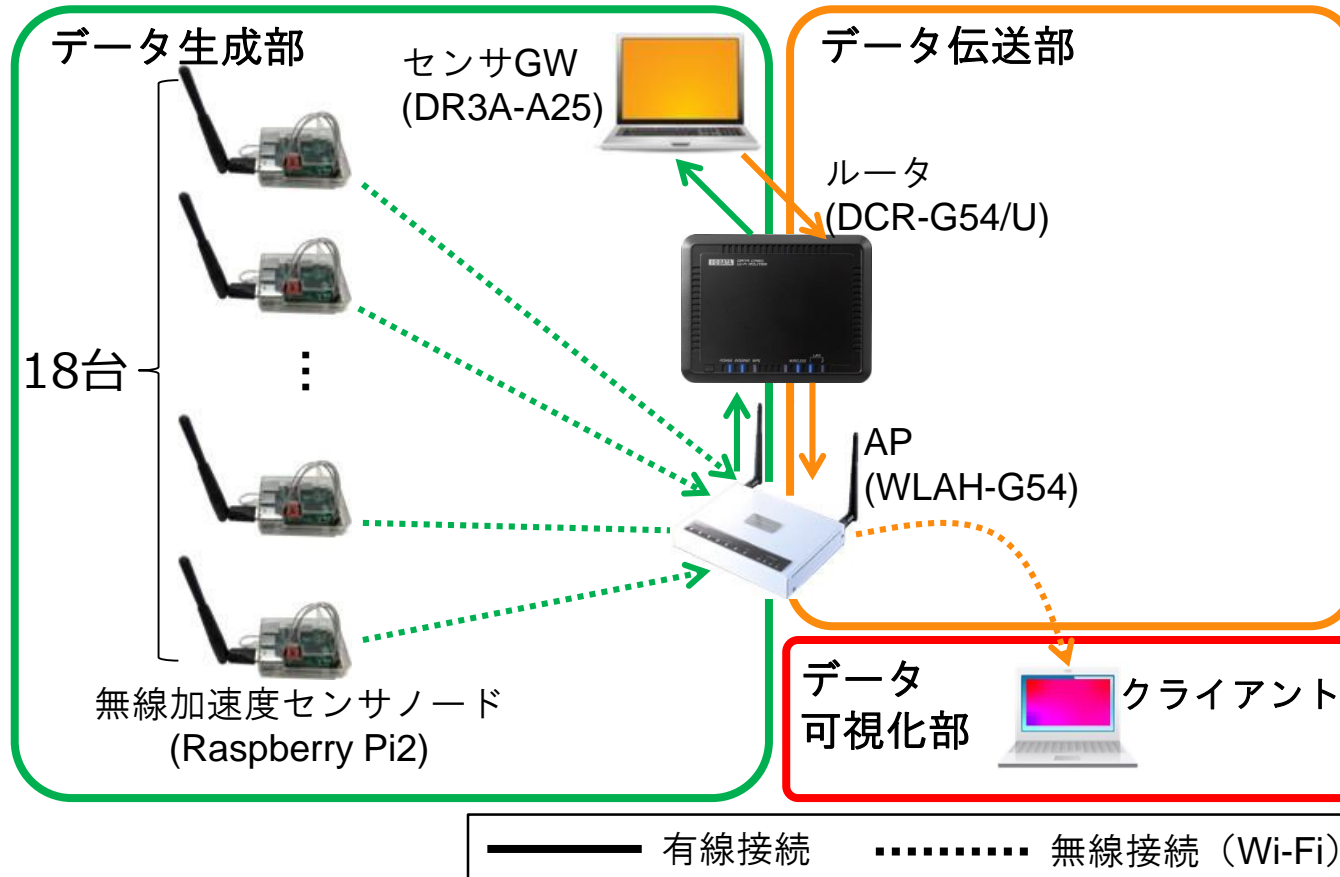
- クライアントプログラム一覧

```
client
├── client.html
├── README.txt
├── css
│   └── client.css
├── js
│   ├── jquery-2.2.4.min.js
│   ├── main.js
│   ├── webgl.js
│   └── worker.js
```

システム起動手順

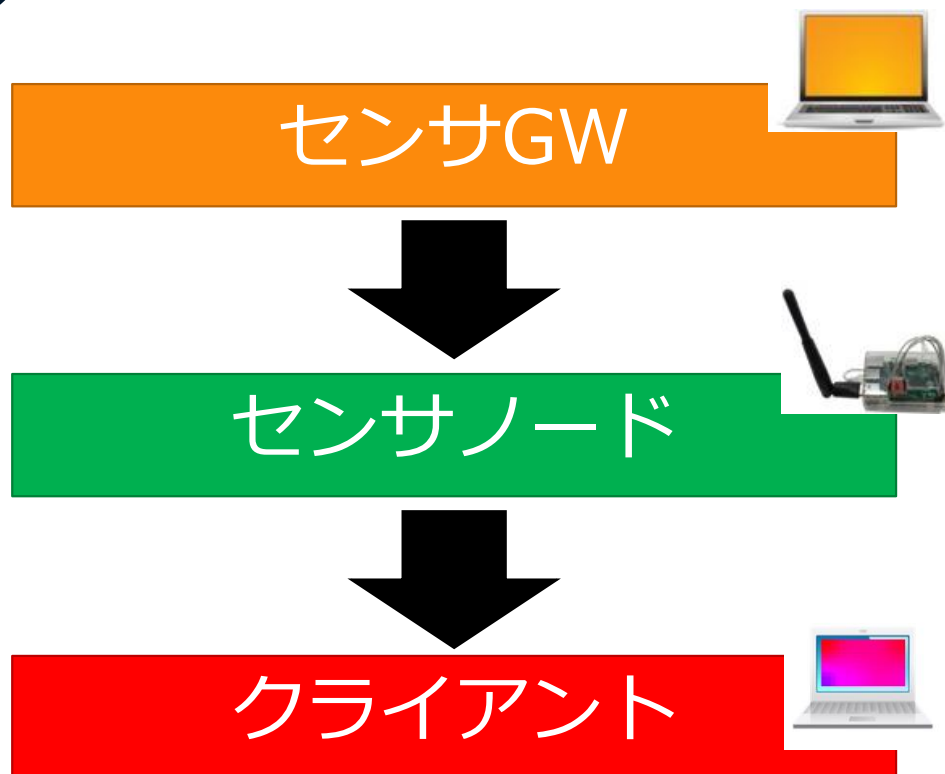
起動手順 [1/2]

- 下記のアーキテクチャのように各機器を接続



起動手順 [2/2]

- 起動順序



- 各プログラムの起動手順はREADME.txtを参照

動作例

動作例

- 室内環境における動作検証
 - 実験場所：研究室内 (縦90cm, 横180cm)
 - 使用ノード数：18

